

2月13日 マルコによる福音書4章1～9節 今日の説教から

説教題：「種をまかれたわたしたち」

今日の聖書箇所では私たち自身のことが「土」としてたとえられていて、御言葉が「種」としてたとえられております。ただ、人々に分かるように伝えたつもりであったイエス様は、たとえを理解できない群衆と弟子たちの様子を見て少し呆れながらも、続く14～20節で詳しく解説をしてくれています。

最初に説明されているのは、「種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである」という言葉です。今日の個所のたとえ話では、このように種をまくことは神様の言葉を語るという事であり、種が芽吹く土とはその言葉を受ける私たち人間である、という事が最初に教えられています。

そして、4つの土の状態のたとえが、それぞれ人間の御言葉に対する態度としてたとえられていることを教えます。舗装された道に落ちた種のように、心を頑なにして自分が大切にしているもの以外の何物をも受け入れようとしない人物は、「自分が正しい」というサタンのささやきによって御言葉を一切受け入れようとしません。

石だらけの浅い土に落ちた種のように、私たちの心にしっかり根差していない御言葉は、他に優先するべきものが現れた時に、簡単に忘れ去られてしまいます。

茨の中に落ちた種が十分に育たないように、御言葉よりも富や名声を優先してしまう事自体が大きな問題であり、同時に神様以外のものを第一に考えることによって、御言葉の種に太陽の光が届かなくなり、信仰という実が十分に育たなくなることが示されています。

このように、私たち自身が御言葉を受け入れない土であれば信仰が育ちませんが、私たちが「良い土」であったのならば、御言葉をまっすぐに受け止めて、神様と私たちが一対一で対話するような、素直な態度を持つことが出来るのならば、私たちの信仰は豊かに実り、次の世代のための種を宿すことが出来るようになります。

イエス様によって御言葉の種をまかれた私たちは、次の「種をまく人」「御言葉を伝える人」になります。それと同時に、私たちは隣人という土を「耕す人」としても、神様に用いられる大きな役割を担っているのです。皆さまが、初めて御言葉に出会った時、イエス様に出会った時、それを素直に受け入れることが出来ていたのであれば、皆さまという土を誰かが丁寧に耕してくれていたのでしょう。逆に、初めて神様に出会った時に受け入れることが出来なかつた方も、むしろ「神様なんていない」と強い反発を感じていた方も中にはいるかもしれません。その方は、その時はまだその土は固く、信仰が育つほどに耕されていなかつたのでしょう。ただ、今この時私たちが同じ江刺教会員として御言葉を受けているという事は、それぞれの場所、それぞれの時に私たちという土を耕してくれた人や環境があったからです。だからこそ、イエス様の言葉を受け入れることが出来るほどに、十字架による罪の贖いや、死者の復活といった、決して簡単には信じることが出来ない神様の業を信じることができるほどに、私たちは柔軟に耕されたのです。私たちを支えてくれた先達や家族、兄弟姉妹によって私たちは御言葉を受け入れる下地が育てられたのです。

種をまかれた私たちは、神様に用いられて、御言葉を伝える者として、御言葉を受け入れることが出来るように心を解きほぐす者として、確かにこの地で伝道の業を担うことが出来ます。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 4章 1～9節

- 1:イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびただしい群衆が、そばに集まつて来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われた。

「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

マルコによる福音書 4章 14～20節

- 種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。
- 道端のものとは、こういう人たちである。そこに御言葉が蒔かれ、それを聞いても、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれた御言葉を奪い去る。
- 石だらけの所に蒔かれるものとは、こういう人たちである。御言葉を聞くとすぐ喜んで受け入れるが、自分には根がないので、しばらくは続いても、後で御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう。
- また、ほかの人たちは茨の中に蒔かれるものである。この人たちは御言葉を聞くが、この世の思い煩いや富の誘惑、その他いろいろな欲望が心に入り込み、御言葉を覆いふさいで実らない。
- 良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて受け入れる人たちであり、ある者は三十倍、ある者は六十倍、ある者は百倍の実を結ぶのである。